

海域の概要

本湾は、岩手県南部のリアス式海岸に存在する湾で、南部を太平洋に開いています。湾奥には大船渡港があります。湾内ではカキ・ノリ・ワカメの養殖などが行われています。



Specification

諸元

湾口幅：0.2 km

面積：7.89 km²

湾内最大水深：3.8 m

湾口最大水深：3.8 m

閉鎖度指標：1.404

備考：環境基準類型指定水域

Location

範囲または位置

岩手県大船渡港湾口防波堤両先端を結ぶ線、同防波堤及び陸岸により囲まれた海域。

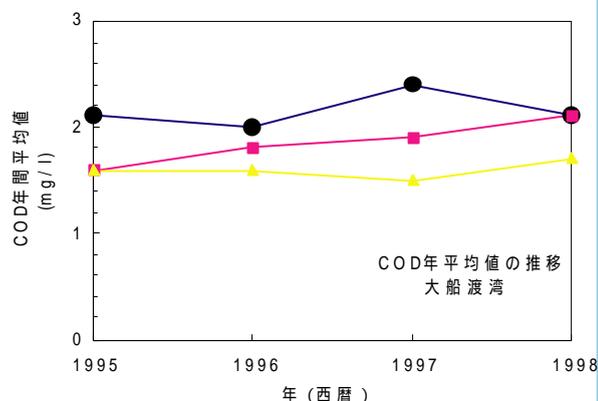


環境

奥行きが深い湾であることもあり、一部では富栄養化が進行しています。

COD年平均値の推移をみると、2mg/l程度で推移していますが、地点によっては年平均値が2mg/lを下回ることはない箇所も見られます。

底質は、湾奥部は泥質で湾口付近は砂となっており、また、海岸線付近は岩となっています。



自然

大船渡湾は、湾口を東方太平洋に向かって開き、それから北折して、陸地に深入した細長い湾です。全長は6 kmあり、湾内の最も広いところで2 km、最も狭いところで720mであり、周囲はほとんど山岳、丘陵で囲まれ、常に風波を防いでいる天然の良港です。

藻場は、湾奥部にアマモ場が分布する他は、湾口部にコンブを主体とする海中林がみられます。

湾口の末崎半島の東南端約12kmの海岸線は「碁石海岸」と呼ばれ、3つの洞門をもつ「穴通磯」、深くえぐられた水道景観の「乱曝谷」、碁石のような形をした黒砂利のある「碁石浜」など、変化に富んだすばらしい海岸景観地となっています。その他にも、雷のような海鳴りの「雷岩」、碁石岬から見る広田半島・蛇ヶ崎の自然海岸があります。

海岸沿いではウミネコやイソヒヨドリ、広場などではシジュウカラやハクセキレイ、カワラヒワなどを年中見ることができます。地先海域は、暖流と寒流が交錯する海域であり、暖地性の植物と寒地性の植物が見られ、また、ハマギク、アサツキ、キリンソウなどの海岸植物とオカトラノオ、チゴユリ、ヤマユリなど山野の草花が一地域で見られるのも特徴の一つです。



湾口の穴通磯

文化歴史

大船渡湾岸には、蛸ノ浦貝塚(国指定史跡)、下船渡貝塚(国指定史跡)、大洞貝塚(県指定史跡)など、多くの貝塚や遺跡がみられます。これらの貝塚からは、鹿角製の釣針やモリなどの漁具、土器や石器、食料とした貝や魚の骨などがみつかります。アサリやカキ、ホタテなどのほか、マグロ、ブリ、カツオなどの魚の骨もあり、当時の海の豊かさを今に伝えています。

産業

沖合いに世界有数の三陸漁場を控え、天然の良港を抱える大船渡にとって、養殖漁業・漁船漁業・水産加工業などの水産業は、市の発展の基盤を支えています。そのため、漁港整備や魚市場への水揚げ増強のほか新商品の開発、販路拡大、魚食普及事業などに積極的に取り組んでいます。また、アワビ・ウニ・ヒラメなどの放流事業や漁業研究グループへの援助などを通じて、つくり育てる漁業が進められています。

主な魚種は、サンマ、サケ、イサダ、イカです。



サンマの水揚げ